

第2回上信越高原国立公園須坂・高山地域管理計画検討準備会議の内容

(1)会議の概要

開催日時	平成25年2月6日(水) 9:30~12:00
開催場所	長野市生涯学習センター第1学習室
議題	○地域連携会議の開催経緯と結果報告 ○管理計画書(試案)の検討 ○今後の地域連携会議への助言

(2)会議の結果(主な意見)

テーマ	主な意見
地域連携会議の開催経緯と結果報告	<ul style="list-style-type: none"> ■ 連携会議の結果が出るに至ったプロセスは、他地域にこの経験を生かすためにも記録として残しておくほうが良い。
管理計画書(試案)の検討	<ul style="list-style-type: none"> ■ 地域連携会議で話しあった内容や行動指針案は、非常に大切なので、来年度の連携会議で合意が出来たものに関しては、管理計画と並存させて行動指針を作成した方が良い。 ■ 行動指針の議論の中に各地域のエッセンスが凝縮されているので、うまい形で管理計画のなかで表せれば今までに無い管理計画になる。例えば、第6章その他のなかで、作成プロセスに地域の意見や行動指針などが議論されたことを掲載する方法もある。 ■ 須坂地域、高山地域ともに、活発な議論の結果出てきた行動指針案なので、管理計画書の本文に掲載できない場合であっても別の資料に掲載して、会議メンバーにもフィードバックして欲しい。 ■ 地域連携会議のほうが内容が豊富なので、公式な部分を管理計画書に書き、連携会議の行動指針は別にまとめるはどうか。 ■ 国立公園のとらえ方の問題であるが、国立公園があるからきれいな水や空気がこの地域にあるのだ、というように地域の環境を守っている、という書き方も大事である。 ■ 須坂・高山地域のあたりは、日本海側と太平洋側を分ける分水嶺になっているという特徴を追記したほうがよい。 ■ 第2章の3.将来目標のための仕組みづくりの表現方法では、目標を実現させるために議論を進めていく、という意志を示したほうが良い。 ■ 来年度末にどういう状況になっているかも丁寧に見ていく必要があるが、関係する自治体や環境省は、連携会議を支えていく方向性は持っているので、管理計画書の書き方はもう少し積極的な表現になると思う。(環境省)

<p>今後の地域連携会議への助言</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 連携会議の内規や運営方法などは、自主的に動けるようにすると機動性のある組織になる。 ▪ 須坂と高山の連携会議が相互に意見を交換する場も必要である。 ▪ 須坂・高山地域は、連携会議を3回しっかりやって行動指針案などの議論にまでなっている雰囲気から、世界遺産ではない普通の国立公園のなかでは、かなり進んでいると思う。 ▪ 地域連携会議がどう位置づけられるのかがはっきりしないままに来ているので、恒久的な組織として維持されるかどうかが明確でない。 ▪ 新たな組織を立ち上げるということとはかえって続かないと思うので、現在メンバーが所属している会の活動に国立公園の意味付けを加えていただくというあたりからはじめてもらうのが良いのではないかと。環境省と各自自治体が協力していけばなんとか形になるのではないかと。（環境省） ▪ 地域の環境のことを国立公園というかたちでやっていることは大きいことであり、最低限、年に1回の意見交換会（住民説明会）などを、環境省がきちんと呼びかけて行なうことが大事である。 ▪ せっかく出てきた地域の意見なので、管理計画書に載らない場合でも、来年度の連携会議に向けた熱を冷まさないように継続させたほうがよい。 ▪ 県の自然保護課で窓口となって、連携会議が実現させたいことに対して、県庁内にフィードバックして、できることを考えていきたい。
<p>その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 平成25年度も同じ委員の方々と、「管理計画検討会」を組織していく。事務局（環境省）の方で、座長とも相談しながら進め方を検討し、委員各位に後日連絡をする。